

手作りコンサートを演出する人

三和小学校教諭の宮地千佳さんに子どもたちのステージを演出していく上での苦労などを話してもらいました。

子どもたちの普段からの思いを ステージに表現したい

このコンサートでステージを演出する場合は、どこでどの子の個性を引き出せるかを考え、ホタルを守る役やホタルを演じる役などの役割を分担し、それぞれの個性を出すように努めています。

ステージでは、子どもたちの普段からの思いを「ほたるコンサート」の中に入れてというのがあります。このコンサートのために特別なことをいうわけではなく、三和の子どもたちがどんな思いでホタルを守っているのかということ、川についてどんな思いを持っているのかを素直にそのままステージに出すことができればいいなと思っています。子どもたちは狭い三和町や川の中にいるものだから、もっと広い世界の人に呼びかけるといつか訴えるような表現力をつけさせてあげたいというところと自信をもって自分の思いを伝えるようにしていきたいです。



子どもたちも変わってくものではないかと思っんです。

自分たちがやっていることは 実は大変すばらしいこと

普段の委員会活動はカワノナをとったり、水をかえたりなど単調な作業が多いので、マンネリ化しているわけです。ですから、やっていることに誇りを持つということがなかなかできないんです。

でも、実はそれが大変すばらしいことで、自分たちが毎日やってきたこと、つまり、ホタルを増やそうとしていることは、今、日本中で問題になっている環境問題にもつながっているんだということがアピールすることによってわかってくるのです。小さなことをやっているだけ

ど、実はそれが大きなことにつながっているということも子どもたちが確認できれば、自信をつけていき視野も広がるのではないかと思っんです。

子どもたちはこのコンサートを 楽しみにしています

「ほたるコンサート」にお客として来ることはあったんですが、まさか演じる側になるとは思いませんでした。外から見ていると、短い時間が、これのためにかなりの時間を費やしているのだろっなと思っっていました。

実際、中に入って見てみると子どもたちはこのコンサートをすこっく楽しみにしているんだということに気づきました。

町全体で楽しみにしているんですよ。子どもたちがステージに出演する時間は10分と短いんですが、子どもたちの親もコンサートスタッフとして働いていて、情報が早いんですよ。今年は何々が来るよ」「とか「チケットはこれだけ売れたよ」とかですね。

だから、私が思っている以上に親子いっしょに楽しみにして何と成功させたいと思っっていることがわかりました。また、このコンサートではいろん

なアーティストの人がやってくることで、違う文化に触れることができ。それが子どもたちにはものすごく新鮮で、いい刺激になって、深く心に残っっているということがよくわかりました。

リハーサルの段階から皆さんよく盛り上げてくれるので、子どもたちも普段以上の力を出しますよ。

このコンサートは 文化の香りのするもの

この「ほたるコンサート」は単なるお祭りではなく、より広い人たちにメッセージを伝えるもので、もっと文化の香りのするもののような気がします。

10分間という時間の中で自分たちが訴えていくもの、また遠方から来ていただいた人に自分たちの活動を見てほしい、いっしょに歩んでくださいと呼びかけていくというイメージがだんだん強くなってきていますね。

